

ほっとハート



「普通」とは

〇年〇組 担任 〇〇 〇〇

大学生の頃、「一度も失敗したことがない人は、何も新しいことに挑戦したことがない人である」と、ある講義の中で教授がこの言葉を引用した。この言葉は物理学者のアインシュタインの有名な言葉で、私はこの言葉を聞いた時、自分のこれまでの人生を改めて振り返ってみることにした。

学生の頃、私はサッカーに夢中で、毎日のようにボールを追い続ける日々を過ごしていた。サッカーはチームプレーのスポーツであるが、自分との戦いでもあると考える。なぜなら、常に周りを見ながら、瞬時に次のプレーや動きなどを考えて選択しなければチームの足を引っ張ってしまうからである。レギュラーになったころの私は『ミスをしてしまったら試合に出られなくなる』と消極的なプレーをしていた。そんなプレーを続けていた時、監督に呼ばれ「そんなプレーで楽しいか。挑戦しろ。ミスしても取り返せ。」と声をかけられた。この言葉に私は“はっ”とさせられた。それまでの私は、「失敗＝チームに迷惑をかけてしまう」と考えていたため、失敗を恐れて消極的なプレーを選んでしまっていた。しかし、その言葉を受けてから考え方が少しずつ変化し、「積極的なプレーに挑戦して、もし失敗しても取り返せばいい」と思えるようになり、プレーの幅を広げることができた。積極的なプレーをして結果的にチームに貢献できた時とてもうれしい気持ちになれたし、失敗した時もどうしたら次はうまくいくのかとポジティブに考えられるようになった。私はサッカーを通して「挑戦して失敗しても悪いことではない。失敗は成功への遠回り」と思えるようになったのである。

大人になるにつれて、何か新しいことに挑戦してみたいと思っても、失敗を恐れて「自分には向いていない」、「今じゃなくても良い」などと正当化して諦めてしまうことも多くあるだろう。しかし、子供の時期には、色々なことに挑戦して多くの経験をしてもらいたい。全てが成功するとは限らないし失敗することも多くあるだろう。だが、できた時の喜び、できなかったときの悔しさは挑戦したからこそ得ることができた大きな財産である。失敗を恐れて挑戦に迷っている子供がいたら「とりあえず挑戦してみよう！」と背中を押してあげたい。

各学年の実践より 今回は、2年生の授業を紹介します。

「ゆきひょうのライナ」(生命の尊さ)



○ねらい：生きることのすばらしさを知り、
生命を大切にしようとする態度育てる。

○教材の内容について

生まれて初めてたんけんに出かけた ゆきひょうの子どもの『ライナ』は、魚がサギに食べられる姿やきつねに子ウサギたちが襲われる姿を見て、「やめて。」という声をあげてしまいます。しかし、みみずくのおじいさんに「・・・むだないのちは1つもない。・・・なくなったいのちのぶんも いっしょうけんめい生きるのじゃ。」と言われ、たくましく成長していくというお話です。

○授業では…

自分の命は大切なものだということは、たくさんの子供が理解していると思います。しかし、実際は、多くの命のつながりの中での、命の1つとして自分の命があることを忘れがちです。今回の授業では、ライナが子ウサギの命のために「かわいそう」と思うのですが、きつねはえものを取らねば生きていけないという現実気づくとともに、みみずくのおじいさんの言葉「うまれたものは、いつかはいのちがなくなっていく。だが、むだないのちはなにひとつないじゃ。・・・」を考えることで、ライナが感じた生命の尊さを自分の事として感じ取れるようにしました。授業の終わりには、自分の生命のかけがえのなさを感じることができたようです。児童からは、「自分達は動物や植物の命をもらって生きていることが分かった。」「自分の命のもとになる食べものに感謝して食べます。」「食べている生き物にいつも『ごちそうさま。』をしているけれど、今度は『おいしかったよ。』って言ってあげる。」「『いただきます。』『ごちそうさま』と気持ちを込めて言うようにしたい。」「命を大切に、長く生きたい。」「命を大事に、毎日楽しく、一生懸命に生きたい。」「命をもらっているのだから、自分も一生懸命生きよう。」などの意見が出ました。

ライナへ お手紙を書きました。

- 何かを食べるといことは、自分の命になるということだと分ったよ。だから、ライナも一生懸命に生きようね。
- ライナの食べたものは、ライナの命を繋ぐんだよ。
- 食べられた生き物の分も長く生きるんだよ。
- 食べられたものは、命のもとになったんだから、命が一番大切なんだよ。
- 命を大切にね。感謝して食べようね。
- 食べ物が命だと初めて知ったよ。無駄にしないように、感謝していくよ。

○ご家庭へ

ライナの目線で命の尊さや食による命のつながりを知った2年生ですが、わたしたち人間も他の生命を食し、自らの生命を保っていることを理解することは、子供たちにとってとても大切なことです。ご家庭でも、おうち時間を使って料理をしたりする際、「食」による生命のつながりを一つの切り口としてお子さんと語り合いながら、生命を尊ぶ心や生命への畏敬の念について、親子でぜひ考えてみてはいかがでしょうか。